

2018 年液体クロマトグラフィー科学遺産認定

日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会では、2018 年度より「液体クロマトグラフィー科学遺産」を認定する事となり、本年 2 月より 9 月末まで科学遺産候補の推薦公募を行った。期日までに提出された推薦書を基に、2018 年液体クロマトグラフィー科学遺産認定委員会で審議した結果、「高速液体クロマトグラフ LC-10A シリーズ」（所有者：株式会社島津製作所分析計測事業部）が液体クロマトグラフィー科学遺産第 1 号として認定され、10 月 30 日開催の液体クロマトグラフィー研究懇談会第 7 回運営委員会で承認された。

「液体クロマトグラフィー科学遺産」とは、その認定に関する規定第 2 条に、「日本における液体クロマトグラフィーの発展にとって、歴史的な観点から顕著な貢献があったと認められるものを指す」と定義されている。認定第 1 号となった「高速液体クロマトグラフ LC-10A シリーズ」は、1991 年 2 月に株式会社島津製作所が上市した一連の HPLC 装置及び付属装置群であり、当時の最新技術を駆使する事により、先進のデザインコンセプト、世界初の光ファイバーコミュニケーション、独自のマイクロランジヤ送液技術、最高の低ノイズレベル性能、世界初の 2 波長同時測定機能と温調セルなど数々の特徴を有していた。LC-10A シリーズは、その最新技術、革新技術により、HPLC の応用分野における分析の品質及びデータの信頼性向上に顕著な貢献し、以後の HPLC 装置開発の方向性に影響を与え、その発展に大きく寄与したと認められた。なお、認定作業に当たったのは以下の 5 名である（◎印：委員長）。岡橋美貴子（病態解析研究所）、加藤尚志（バイオタージ・ジャパン）、竹澤正明（東レリサーチセンター）、◎中村 洋（東京理科大学）、三上博久（島津総合サービス）

液体クロマトグラフィー研究懇談会